

## 第3次三重県動物愛護管理推進計画検討会（第4回）議事要旨

### 1 日時

令和2年2月3日（月）13時30分から15時30分まで

### 2 場所

三重県津庁舎5階 53会議室

### 3 出席者

【座長】三重県動物愛護推進センター 所長 久米 徹 委員

座長代理として久米委員が指名された。

国立大学法人岐阜大学応用生物科学部 教授 杉山 誠 委員

公益社団法人三重県獣医師会 会長 永田 克行 委員

【兼 公益財団法人三重県動物管理事務所 理事長】

三重県愛玩動物協会 代表 奥野 恵子 委員

三重県動物愛護推進員 山越 哲生 委員

四日市市保健所副所長兼衛生指導課長 平田 茂 委員

津市環境部環境保全課 課長 西川 直希 委員

大紀町環境水道課 課長 喜多 保友 委員

林委員（三重県保健所長会 会長 兼 三重県津保健所 所長）は欠席

### （事務局）

三重県医療保健部食品安全課

食品安全課長 中井、生活衛生・動物愛護班長 佐々木、同班 山中

### 4 配布資料

資料1-1 第2次三重県動物愛護管理推進計画の延長について

資料1-2 令和2年度三重県動物愛護管理推進実施計画（案）

資料2-1 第3次三重県動物愛護管理推進計画改訂スケジュール（再修正案）

資料2-2 改正動物愛護管理基本指針（素案）

資料2-3 第3次動物愛護管理推進計画骨子案

## 5 要旨

### (1) 第2次三重県動物愛護管理推進計画の延長について(資料1)

(事務局より)

現推進計画の再延長について説明。

令和2年度三重県動物愛護管理推進実施計画について説明。

(委員より)

今回、動物愛護法が改正となったが、推進計画の延長にあたり、目標数等に反映されていないように思う。出来ないことはあると思うが、内容を反映することを期待している。

○数値目標を設けることは理解できるが、啓発等の内容については、継続して見直していってほしい。例えば動物の愛護の絵・ポスター展は、1万人以上に啓発できる良い機会であるが、そこで何を問うて行くべきか、何を啓発し伝えて行くのかは、常に変化していくものである。現状の内容を分析して、取り上げるべき内容の見直しを検討してほしい。また、絵・ポスター展の内容だけでなく、イベントや県の作成する啓発用の配布物等の内容に関しても見直しを図ってほしい。

○見直しに向けては、検証作業が必要になるので、イベント等を開催した後は、アンケートを実施するなど、検証につなげられる方法を検討してはどうか。

○実験動物取扱施設に法改正の内容を周知するなど、適切な情報提供を図るためにも、今後も実験動物取扱施設の把握に努めてほしい。

### (2) 第3次三重県動物愛護管理推進計画の骨子案について(資料2)

(事務局より)

改正動物愛護管理基本指針(素案)について説明

(委員より)

(基本指針の考え方では、)10年後を考えれば、今後は「アニマルウェルフェア」を重視していこうということであるが、法律の名前が示すように(日本で主流的な考え方は)あくまで「動物愛護」である。

○(「動物愛護」と「アニマルウェルフェア」は異なった概念であり、)「動物愛護」は、主体が「人」であって、キーワードは「情」である。一方、「アニマルウェルフェア」では、主体が「動物」であって、キーワードは「科学」である。

○「アニマルウェルフェア」では、科学的に「苦痛」を計り、「苦痛」を計った上で、功利主義の考え方から、「苦痛」と人間への有益性を天秤にかけ、それを利用して良いかを決めていく。これらの違いを理解した上で、第2次推進計画の内容を見直し、これまでの「命」を守ることが主眼であった施策から、動物の「QOL」を引き上げる具体的な施策が求められているのではないか。

これまでの施策の効果が、次の改善にどのようにつながり、どう活かされている

くのか、仕組みを作っていくことが重要。数値目標を設定し、結果に伴って打つ手を変え、中身を検討して改善していくというのは、事業の進め方として通例であるが、そういった手法は行政としては限界かもしれない。数値化にこだわりすぎ、数値目標として適正に設定できなかった場合、取組自体が形骸化し、本来啓発し広めなければならない内容などへフィードバックされなくなることは問題である。数値目標に対する結果を評価・分析し、目的に即した効果をも高める目標・内容を提案してもらいたい。

日本と世界（欧米）では動物に対する考え方の違いがあり、「生死」に強く反応するのか、「苦痛」に強く反応するかという観点がある。日本は「生死」であり、欧米は「苦痛」である。これが「動物愛護」と「アニマルウェルフェア」の違いとなっており、動物の「QOL」の考え方に向かっているとはいえ、一方（現時点の日本で）「アニマルウェルフェア」の考え方にどこまで行けるのかという迷いが、国の基本指針にも出ているように思われる。

- 数値基準（目標）を持つことは重要なことだが、直接的に算出される数値にこだわりすぎると適正な目標設定できなくなることがある。（直接的な数値ではなく、）効果に着目してはどうか。例えば推進員に自己点検評価のようなことをしてもらい、適切な活動を実施できた率がどうかという効果を測定する。何かの活動をすることにより、私はより良くなりましたといったという評価をすることで、良くなった人が何パーセント上昇したというような目標も設定できるのではないか。
- （評価のために）アンケートをとるときは、たくさん項目を設定するのは良くない。少ない項目で何か（評価する）効果の高いものを入れておくだけで良い。集計の手間等問題はあるかもしれないが、計画として整合性のとれた目標の設定を図ってもらいたい。
- 「動物に関する相談数」のように評価としてどちらにもとれるような数値は、目標として置くのは難しいと思う。
- 「動物愛護」と「アニマルウェルフェア」の違いが整理され、考え方が共有されることではじめて10年後のめざすべき姿（目標）が出てくる。これらの考え方を理解しないままでは良い形にはならないので、その点をふまえて今後内容を検討してもらいたい。